

令和3年度千葉市新基本計画審議会 議事要旨

1 日 時 令和3年8月23日（月）15時00分～16時30分

2 場 所 Web開催（議会棟第2説明員控室）

3 参加者 ≪委員≫15名

麻畑 紀美子委員、芦沢 哲蔵委員、石河 勲委員、岩崎 久美子委員、大野 克己委員、
岡本 眞一委員、鈴木 雅之委員、高梨 園子委員、徳永 康子委員、轟 朝幸委員、
南雲 岳彦委員、松永 哲也委員、村尾 憲治委員、望月 泰伸委員、森川 博之委員
（五十音順）

≪事務局≫9名

神崎 総合政策局長、堺 総合政策部長、勝瀬 未来都市戦略部長、中村 道路部長、
濤岡 政策企画課長、江寺 政策調整課長、鈴木 スマートシティ推進課長、
日暮 道路計画課長、葛岡 街路建設課長

4 議 題

(1) 各部会の答申について

- ①地方創生部会の答申について
- ②スマートシティ部会の答申について
- ③公共事業再評価部会の答申について

(2) その他

5 議事概要

(1) 各部会の答申について

- ・各部会の答申（案）について、部会長及び事務局より説明を行った。
- ・千葉市新基本計画審議会は、各部会の答申について8月23日付で確定とした。

(2) その他

議事録の確定方法について、事務局より説明を行った。

6 会議経過

～以下、議事要旨～

議題（１）各部会の答申について ①地方創生部会の答申について

（部会長）地方創生部会の経緯について説明を行った。

（事務局）「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略の検証について（答申）（案）」について、資料 1-2、資料 1-3 をもとに、説明を行った。

<意見交換>

芦 沢 委 員	総合戦略は全体的に必要な施策が網羅されており、また答申案についても、それぞれポイントをついた指摘があったと思う。一方で、今後の課題について申し上げたい。それは、千葉都市モノレールの有効活用が、本市にとって非常に重要なテーマになるということである。色々な施策と絡んでくるが、一つは、高齢化社会が進むと、高齢者がボランティアや働き場に行く際などでの便利な公共交通が必要だが、モノレールがもっと有効活用されれば、自動車に頼らずに便利な生活ができるなど、より望ましい都市の姿になっていくと思う。具体的には、モノレール駅周辺について、商業や住宅、就業地などで今以上に土地利用密度を高めて有効活用するという事で、それにより、便利になると共にモノレールの採算も良くなっていく。都市計画の分野では、モノレールと周辺地域とを一体的に形成していくような開発を公共交通指向型開発と言うが、方策としては、モノレール駅周辺におけるミクロな立地適正化計画を立てるとか、施設立地に対する補助金等もあるかと思う。約 18 年前、モノレール検討調査委員会というものがあり、その際も同様のことを申し上げたが、長期的な観点で今後も取り組んでいただきたい。また、このときは、モノレールの千葉駅と JR 千葉駅が離れていて不便であったが、いずれペリエも建て替わるため、直結すべきとの意見を出したことから、現在の形になった経緯もある。土地利用の在り方として、公共交通指向型開発をより進めていくと、色々な意味で効果が出てくるのではないかということを上申したい。
轟 会 長	総合戦略の中には、モノレールという表現はあまり表に出ていないが、コンパクトシティに関する内容は盛り込まれているように感じた。部会の方で何か意見はあったか。
鈴 木 委 員	テーマとして、総合戦略に地域公共交通計画の策定という項目は出しているが、モノレールという固有名詞までは出していない。今後、千葉市でも集約型都市計画ということでコンパクト化を進める動きもあるため、モノレールについても検討の俎上に載せていきたい。
轟 会 長	現在、地域公共交通計画の策定を進めているところであり、その中で、モノレールは重要な役割を果たすものとして捉えている。鉄道、モノレール、バス、そういったすべてのものに関してしっかりと計画をつくり、地域公共交通計画の一環として捉えていくものと理解している。
岡 本 委 員	改訂概要資料では、災害リスク・感染症リスクへの対応が記載されているが、答申案の中には、関連する事項について特に触れられていない。何か議論があったか。
鈴 木 委 員	既に内容そのものは原案に盛り込まれているため、今回の意見としては出していない。
濤 岡 課 長	総合戦略には、災害に強いまちづくりに加え、感染防止対策と社会・経済活動の両立という項目を立てている。具体的には、新しい市立病院の整備や、人口動態として東京から千葉への回帰もみられるため、リモート技術などを取り入れて、感染防止対策と経済活動が両立していくまちづくりを進めることについて計画に位置付けている。
岡 本 委 員	感染症の拡大局面においては、感染症の抑制を優先することが、長期的に見ると、経

済活動との両立という面でベネフィットが大きいのではないかと思います。恐らく議論した時点、現状のように千葉市でも入院できず自宅待機者が急増している状況ではない局面においては、収束後の経済活動との両にらみの政策は適切だと思うが、多くの市民が不安を感じている状況では、落ち着く前に経済活動との両立を訴えるのは政策的にマイナスではないか。むしろ早く落ち着かせる局面を優先することが、千葉市の発展にプラスに働くのではないかと思います。ここまでまとまっているところでの全面改訂は難しいと思うが、補足的な意見を出すとか、部会の議論として記録を残すなどの方法で、千葉市の政策がより前に進む対応を考えられることを期待したい。

鈴木委員

どの時点で考えるかというのは非常に難しいところである。我々が議論したときは、ここまで激しく拡大するとは思っていなかったが、収束してもコロナがなくなるわけではないため、ウィズコロナとして、コロナと共生しながら、どのように経済活動を進めていくかについて議論したところである。もし事務局の方で意見があれば、どのように反映するか検討していきたい。

芦沢委員

先ほど申し上げた公共交通指向型開発についてである。先ほど轟会長より地域公共交通計画の検討委員会の話があったが、私が申しあげたいのは、土地利用あるいは開発とインフラ的な公共交通とをいかにマッチさせるかである。駅周辺開発によって公共交通の利用促進あるいは公共交通が便利になり、またそれによって開発が進み、人々の生活がより向上する。そういう一体的に捉える考え方を進めていただきたい。そのためには、総合戦略の重要なファクターになってほしいということである。

轟会長

言葉が足りなかったかもしれないが、総合戦略に記載されている都市のコンパクト化や事業例にある立地適正化計画やウォークアブルも併せてということである。地域公共交通計画の策定の中でも、やはりこれらとの連携をしっかりと検討しなければならないということで議論を進めており、両輪となっていくとものと理解している。

森川委員

3点質問したい。1点目は、“ちば”共創都市圏という言葉を使用しているが、誰と誰と誰の共創なのか。2点目は、災害に強い持続可能なレジリエントな都市づくりを重点戦略に挙げているが、非常に重要なことと思われるため、優先順位を付けながら予算措置というものを考えているか。3点目は、オリパラのレガシーについて、何かいいアイデアがあれば教えていただきたい。

溝岡課長

1点目、共創都市圏について、例えば商圈でいうと、東部では茂原や山武、南部では市原や袖ヶ浦との結びつきが強いことが分かっている。これらの地域の働く場、遊び場、交流や観光といったところで本市の拠点性を高め、周辺都市と併せて地域活性化に繋げていくというのが共創都市圏の発想である。明確にどこというのはないが、徐々にグラデーションを持って広がっていくような、特に東部と南部との連携を目指した表現である。2点目、災害に強い都市づくりについては、千葉市で政策パッケージを作り、色々な取組を進めている。例えば、電源の強化や、事前の災害防止の意味で、急傾斜地は当然として、一昨年台風被害時に木が電線を倒して断線してしまうことがあったため、電線周辺の樹木の伐採などの目標値を決めて、予算を取って対策に取り組んでいるところである。3点目、オリパラレガシーについては、2020東京大会前にロンドンへ視察に行っており、やはり共生の理念が大事ということで今後も継続して取り組んでいきたいと思っている。これまでも、小中学生がパラリンピアンに触れ合う機会や障害者が一緒にスポーツをできる機会をつくってきており今後も継続していきたい。もう一つは、ボランティアの関係である。チーム千葉ボランティアネット

轟 会 長	ワークという組織もできたため、こちらと連携した取組についても今後継続していきたいと考えている。
轟 会 長	頂いた意見について、今後の検討の中で踏まえていただくのは前提として、答申案について何か修正はあるか。
鈴 木 委 員	これまでの議論について、今後の検討あるいは次期総合計画に向けてという話もあったため、今回の答申案については変更なしとさせていただき、頂いた意見については、今後引き続き検討していきたいと考えているが如何か。
轟 会 長	今回は提示された案にて答申させていただき、頂いた意見は、今後も参考として総合計画等の検討の中で踏まえていただくということによろしいか。 では、答申案について修正なしということで本日付で答申を確定とする。

議題（１）各部会の答申について ②スマートシティ部会の答申について

（部会長）スマートシティ部会の経緯について説明を行った。

（事務局）「スマートシティ推進ビジョンについて（答申）（案）」について、資料 2-2、資料 2-3 をもとに、説明を行った。

<意見交換>

岡 本 委 員	環境審議会に関わりがあるのだが、総合計画より 1 年早く環境基本計画の素案をまとめないといけないタイミングとなっている。その中で、スマートシティ推進ビジョンに記載されている、水辺や緑と調和した取組をどのように推進するか議論されており、スマートシティ部会の方で、特に意識している点があれば教えてほしい。また、これに関して、環境局では既に市民アンケートを実施しており、ある程度分かっている点もあれば、さらに聞いておけばよかったという点もあるため、こちらの部会で別途アンケートを実施する予定があれば、補完し合うことでより効果が出ると思うが如何か。
森 川 委 員	まずスマートシティについて、もやもやとしたところがあるが、私の位置づけとしては、縦糸と横糸があれば、スマートシティは横糸だと思っており、ご指摘のように色々な方と連携しながら一緒に進めていくことは非常に重要であると考えている。
鈴 木 課 長	スマートシティは、あらゆる分野でこれから取り組んでいくものであり、その中でも環境問題は大きな分野のため、庁内での連携は当然必要なことだと思っている。環境基本計画の実行にあたっては、スマートシティの視点は、再エネ関係などでも大変重要なため、連携しながら進めていきたい。総合計画は令和 5 年からだが、スマートシティ推進ビジョンは環境基本計画と同様、令和 4 年からスタートであり、実際の取組についてこれから連携を密にして進めていきたいと思っている。また、アンケートについては、スマートシティも分野として幅広いため、各分野で行うアンケートのデータを我々も生かしていきたいと思う。我々が行うアンケートは、各分野というよりも、テクノロジーの活用に関する情報伝達といった部分に特化した内容になると思っているが、実行に当たっては連携し、それぞれのアンケート結果のデータを分析しながら進めていきたい。
岡 本 委 員	特に温暖化対策などは、国が方針を示して予算措置もしていただかないと、地方自治体単独でできることは法律的にも財政的にも難しい面がある。国が方針を示したら、うまくそれに乗って、市民の協力が得られるような取組を進めていくことが大切であると思う。市役所の中の事務局間の風通しを良くして、最終的に市民にとってプラスになるよう進めていただければありがたい。
轟 会 長	確かに環境分野、カーボンニュートラルの取組についても、データをしっかりと見え

森川委員 　　る化し、今後の施策に展開していくことが非常に重要であると思う。

森川委員 　　岡本先生より国というご指摘があったが、本部会には南雲さんや越塚先生など国を動かしている方も居られるため、ぜひ期待したい。本日参加いただいている南雲さんよりコメントいただければと思うが如何か。

南雲委員 　　今回、千葉市と一緒にビジョン策定に関わらせていただいたが、色々な自治体と比べても遜色ないベストプラクティスがうまくブレンドされて、千葉市の色が出るたたき台がつけられたという印象を持っている。これから実際に市民の声を拾われるということで、それを踏まえた形で具体化していくことができれば、真っすぐ行くなというところに立っているため、非常に良いものできたと思っている。

森川委員 　　高梨委員からもコメントいただければと思うが如何か。

高梨委員 　　委員の先生方の見識高い経験やタイムリーで多くの好情報に基づき、素晴らしいビジョンを策定の上、事務方の皆さまの多大なるご尽力により良いものをつくっていただいたと思っている。それをいかに実現するために取り組んでいくかということで、市民としても打ち込んでいけるものにしていきたい。

轟会長 　　特に変更が必要という意見はなかったため、提示された案にて答申させていただきたいと思うがよろしいか。

では、答申案について修正なしということで本日付で答申を確定とする。

議題（１）各部会の答申について ③公共事業再評価部会の答申について

（事務局）「都市計画道路 塩田町誉田町線」について、資料 3-2 をもとに、説明を行った。

（部会長）「公共事業再評価について（答申）（案）」について、資料 3-3 をもとに、説明を行った。

特に意見なし。

轟会長 　　答申案に記載のとおり非常に重要な道路であるため、今後も引き続き滞りなく事業を進めていただくことをお願いしたい。

では、ご意見はなかったため、答申案について修正なしということで本日付で答申を確定とする。

議題（２）その他

（事務局）議事録の確定方法について説明を行った。

特に意見なし。

—閉会—